

初めて建てる夢の家【前編】

2000万円 DesignSESSION

土地は、横須賀市佐島のオーシャンフロント、63坪。
二人の超一級建築家、一社の個人的ハウスメーカーに、
二千万の予算で「初めて建てる夢の家」を仮想発注した。
要求は左記

◆具体的要求(キッチンを広く、狭くてもいいので書斎を、等)は一切ないので、実用的でなければ困るが、どこか意外で、非日常性があること。
◆ランニングコストが低いこと(メンテナンス、光熱費)。
◆長男が高校留学し、すぐに夫婦二人になる可能性もある。ライフスタイルの変化に柔軟に対応できる、「一生ものの生活の器」であること。

本号前編はプレゼンストリーミング。三者にセッションを訊き、可能性をひろげる。デザインの結果詳細は、次号(4月30日発売)後編にて、乞うご期待。

■敷地境界線。区画の最奥に位置し、背後は山。佐島公園、マリナーがある天神島至近で、自然環境は最高



N

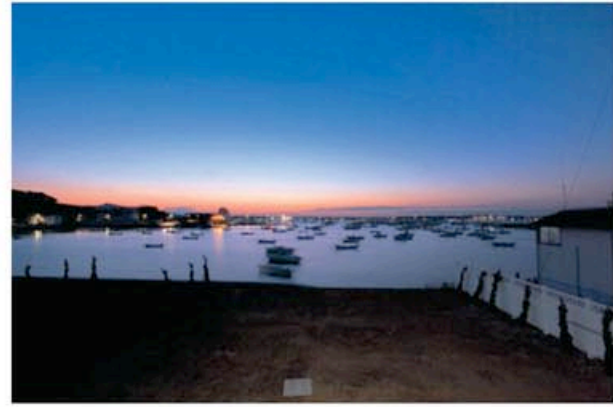
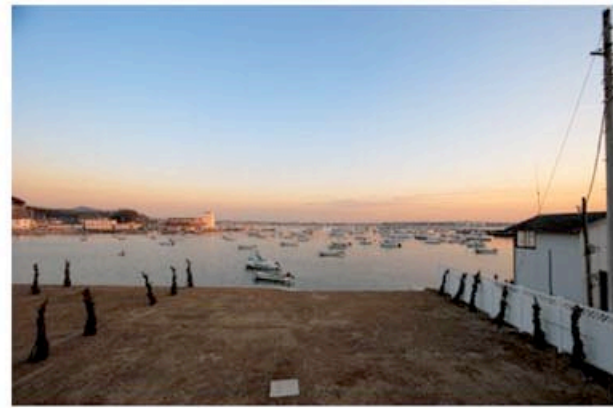
E

S

W

初めて建てる夢の家
2000万円
DesignSESSION
[プランニング編]

「仮想施主」
超理系だが、ガンコな合理主義者ではないA氏・42歳



■海面は佐島港内なので、波やスプレーに悩まされることが少なく、ヨットも着けやすい。光や風の時間軸変化も豊か

【敷地】
東南面は海。209㎡、4350万円

■所在地
横須賀市佐島3丁目1501番50外
5号区画 (209.78㎡/ 4350万)
JR横須賀線、京浜急行とも駅は遠いが、
横浜横須賀道路衣笠ICが近く車の便が良い。
用途地域など詳細は次号後編にて。
※この土地は05年12月末日現在、実際に分譲中。
問い合わせ＝佐久間不動産 TEL: 0468-71-3122

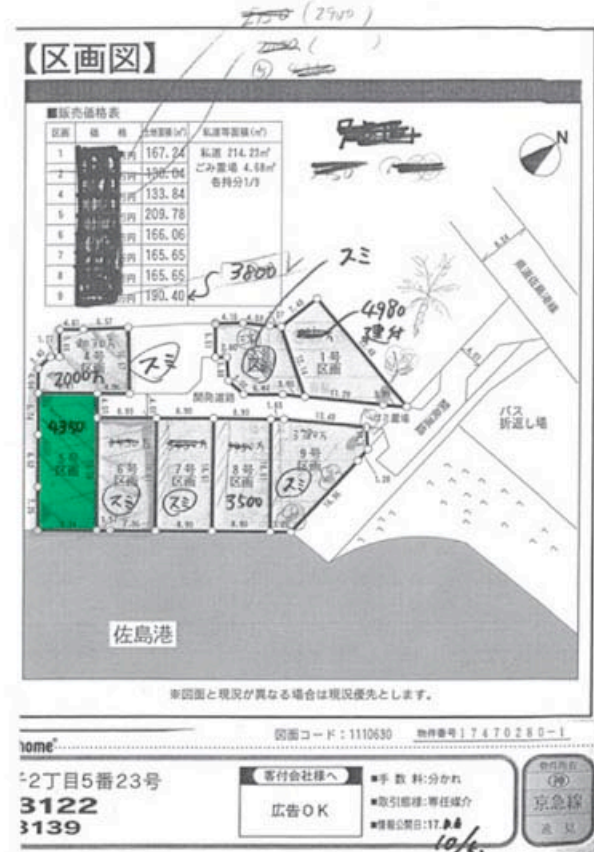
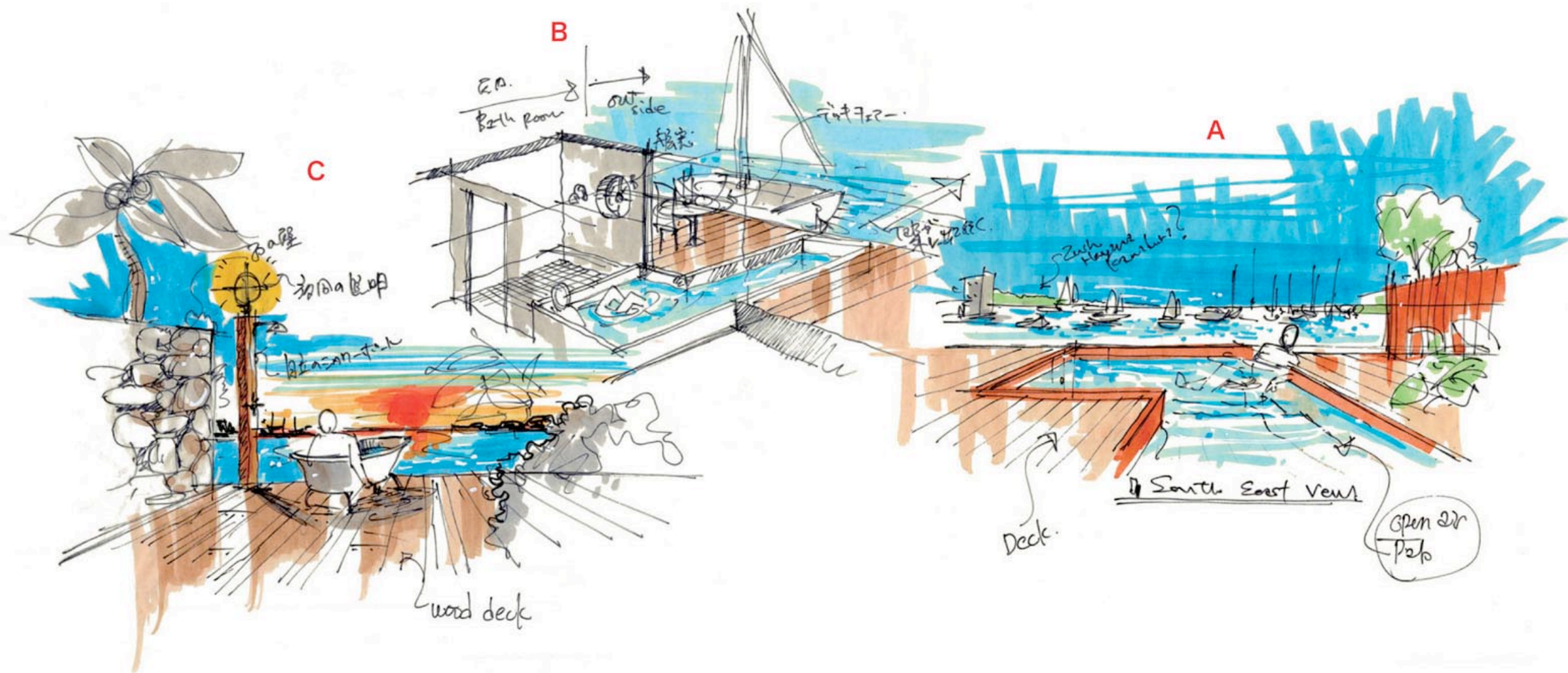


illustration by Atsuo Higuchi

職業■64年神戸生まれ。工科大学大学院
情報理工学研究科を終え、大手通信キ
ャリアに就職。現在はYRP野比にあ
る同社の研究所で次世代携帯のネット
ワーク制御に取り組み。
家族■大学時代ヨットで知り合った2
つ年下の奥様と28歳のとき出来ちゃっ
た婚(奥様の謀略らしい)。
14歳、中二になる長男は独立心旺盛で、

米国に高校留学したがっている。聞き
流していたが、息子の真剣さに、妻と
真剣に検討し始めた。
趣味■ヨット。休日、愛艇のカタマラ
ンで息子と海に出るのが何よりの楽し
み。ところが「ヨットより速い」と息

子にウインドサーフィンのスラローム
ボードをねだられ、実際風が強い日は
ブツちぎられ、複雑な思いをしている。
住宅■結婚以来、森戸の賃貸一軒家
(家賃9・5万)に住んでいたが、父
から相続した金を活かすべく、職場に
近く、趣味にも生活にもベストと思え
る今回の佐島の土地を購入。家屋のデ
ザインを依頼する。
※施主はフィクションであり、実在の
人物、組織とは一切関係ありません。



A 海に浮かぶプール

■敷地いっぱいウッドデッキを作り、海側のエッジ近くまで露天のバスタブを設置する (D: フロアプラン参照)。首まで浸かると、お湯の面と海面が同一レベルに感じられることがミソ。黄昏の海面の光の揺らめきが湯面に続き胸まで届く。

B 室内の水辺

■2000万の予算では、バスルームとプールを設置することは無理。ならば両者の機能をオーバーラップさせれば良い。バスタブを室内から屋外まで伸ばし、夏、水を張ればプール、湯に沸かせば半露天の風呂になる。この部分の壁面は折れ戸にし、全開放で海を眺めながらゆったり入浴できる。

C デッキに猫足バスタブ

■ウッドデッキに直接猫足のバスタブを置く。予算はかからないが、意外に貴族的で贅沢。かたわらにシャワー柱と照明。照明は、できれば昔、夜釣りで使ったカーバイドのような暖かく揺らめく光が気分。

D 3つの動線

■屋内に入る、3つの動線を設ける。たとえば①、家に帰り門扉を開けると海が見える。ウッドデッキの向こうに広がる海を見ながらファサードを進む。家に帰ることが儀式であり、ひとつのエンターテインメントになる。とはいえ普通の玄関 (①) も必要。宅急便のお兄さんが②から入ると、奥様が裸でプールに浸かっていたらお互い気まずいし、今にももれそうで一刻も早くトイレに行きたい状況で家に帰ることもある。そして③、海に出て、帰るときはここから。お父さんのヨット仲間が遊びに来て (奥様に気を使うことなく) デッキで一杯飲んで帰るとか。フロアリングデッキならお金もかからず、海面に浮かぶランチデッキにもなる。

「そりゃあ理想だけど、よほど予算がないと無理でしょう」って？
 そんなことはない、優先事項をはっきりさせて不要なモノを捨て、家の部分の機能をオーバーラップさせるなどの工夫によって、2000万でも充分に可能です。
 クライアントと面談するとき、僕はま

「一生モノの生活の器」となる家のデザインをとの依頼ですが、僕は、家は「器」というより「増幅器」であるべきと思っています。
 生活の楽しさ、甘さを増幅させる装置ですね。家でありながら別荘であり、リゾートであるような。
 人生のいくつかの局面のうち、仕事は、社会のために自分の時間や能力を捧げる時間ですね。その時間を終えて、帰る家が、単に休息や睡眠の場だったら寂しい。
 家に帰ることが、ケとハレで言うハレであり、出張を終えて家に帰るとき、新たに旅立つときのようワクワク感を持って帰るような、そういう家をデザインしたい。

「図面ではダメ、スケッチでないと、イメージが広がらないんですよ」と言いながら、

「今」で、海とヨットですね。
 次は施主さんとの共同作業です。その家で送る「生活のシナリオ」を紡いでゆくのです。雨ではない限り、朝の珈琲はテラスで、とかいうふうに。生活の、あるシーンがくつきりするところ、おのずからその家を象徴するパーツが明快になります。
 それはたとえば屋上のスカイリビングだったり、地下の書斎だったり、キッチンシンクの蛇口だったりする場合があります。
 「海を眺めつつ入る風呂」でしょう。と、そこまで言うところから滝本氏はロールされたトレーシングペーパーを引き出すとスケッチを始めた。

この仮想施主さんの場合は明らかに「今」で、海とヨットですね。
 次は施主さんとの共同作業です。その家で送る「生活のシナリオ」を紡いでゆくのです。雨ではない限り、朝の珈琲はテラスで、とかいうふうに。生活の、あるシーンがくつきりするところ、おのずからその家を象徴するパーツが明快になります。
 それはたとえば屋上のスカイリビングだったり、地下の書斎だったり、キッチンシンクの蛇口だったりする場合があります。
 「海を眺めつつ入る風呂」でしょう。と、そこまで言うところから滝本氏はロールされたトレーシングペーパーを引き出すとスケッチを始めた。

家は、生活の単なる「器」ではなく、その楽しさ、甘さの「増幅器」であるべきだ。

滝本学(滝デザイン研究所)
 TEL:045-663-0061 <http://www.tadg.jp>